

校長室だより

No. 31

平成28年12月9日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

かとうよし かざ
加藤嘉一

第2回学校評議員会

今回（6日（火））は、児童代表6名と学校評議員さんとの懇談です。児童代表から、代表委員会の「あいさつの木活動」と6年の「防災学習（総合）」の取り組みを発表し、懇談を



【児童作成中部防災マップを元に】

しました。正直にいい場だと思いました。両テーマとも、両者がそれぞれ今実際に取り組んでいることであつたので、子供は自分たちの知らない情報や地域の取り組みを知り驚き、大人も子供の視点を知り活用したいと考え、互いの活動に生きる場となっていました。ある意味で対等でした。

今回は、わたしたち学校側の説明ばかりでなく、子供の姿から学校の教育を知っていただきました。「今日参加した子たちの考えや取り組みが全体に広がる大きな動きとなり、自信につながるように」と学校評議員の方に御意見をいただきました。きちんと受け止め、今後の活動に生かしたいと思います。

「お母さん大好き」の重さ — 保育園の「せいかつはっぴょうかい」より —

12月3日（土）にある保育園の「せいかつはっぴょうかい」に今年も参加させていただきました。毎年感動します。まだ文字のわからない子供たちが、小学校の学芸会の如く見事に劇を演じ音楽を奏でます。保育園の先生方の指導のされ方、子供にできるように援助していく姿、安全への様々な配慮等、多くのことを学びます。保育園の先生方は本当にすごいと思います。

今年、特に自分が改めて「はっ」としたのが、園長先生のあいさつでした。そのあいさつでとても重い言葉を話されたと感じ、そのことを記憶しておきたいと思いました。以下は、園長先生の話の要旨です。

“今年の演目のなかに「おおかみとしちひきのこやぎ」がありました。そのお話しに「お母さんやぎ」が登場します。この「お母さんやぎ」を何人かの子で役決めするとき、ある男の子が「お母さんやぎ役をやりたい」と言ってきたそうです。男の子がお母さん役を希望することはあまりないことなので、「なんでやりたいと思うの？」と聞いたところ、「ぼくはお母さんが大好きだから、お母さんやぎをやりたい」と言ったそうです。わたしたちは、お母さんが大好きという言葉聞いてうれしくなりました。この

気持ちを大切にしたいと思い、先生方はお友達と一緒にやらせてあげようと決めました。お母さんの大好きな子らが、今日は精一杯演じます。頑張る姿を御覧ください。”

この話を聞いて、わたしは16年ほど前に聞いた佐々木正美先生（HPより2014年度まで川崎医療福祉大学教授）の講演を思い出しました。佐々木先生は、児童精神科医で保育園・幼稚園の先生方から絶大な支持を受けておられます。「子どもへのまなごし」（福音館書店）という本の著者であることを御存知の方も多いのではないのでしょうか。その佐々木先生の講演の一部にこんなお話しがありました。

《平成12年12月25日 佐々木正美先生の講演より 講演メモ》

こんなわたしでも20年以上同じものを見続けると、いろいろなことがわかってきます。わたしは、〇〇県のある保育園のお手伝いをさせていただいて、20年以上経ちます。すると、幼児の遊びが変わってきたことに気がつきました。変わったのは「ままごと遊び」の人気役です。みなさん、子供たちの一番人気のある役は何だと思えますか？それは、「A役」です。少し前までなら、一番人気は「お母さん役」でした。なぜなら、子供たちにとってお母さんは、大好きな存在で、自分を愛してくれる大切な人であり、しかも家族の誰からも愛される人です。その誰からも愛される役にあこがれる子供が以前は多かったのです。

ところが様子が変わりました。家では、お母さんは「A」を抱くようになりました。金曜日の保育園のお迎えは大変ですね。お昼寝布団や預けていた荷物に自分の荷物を両脇抱え、子供を連れて帰らなければなりません。そんな時ほど、よりによって子供は機嫌が悪く、床に寝転がって泣き叫んでいる場面がよくあります。以前なら、お迎えに来た保護者は、「よしよし、どうしたの」と一度抱きかかえ、あやしていたように思います。しかし、荷物を抱えたまま「いつまで泣いているの。早くしなさい」と、帰りを急ぐ保護者が増えました。大変なことはわかります。でも、ほんのちょっとした間、荷物を一度降ろして抱いてやってもいいじゃないですか。

子供たちは、無意識のうちに自分がその「A」になりたいという感情から「ままごと遊び」で「A役」を選ぶようになってきたようです。子供たちは大好きなお母さんに抱かれ愛されたい。しかし、抱かれるものが「A」に変わってしまったようです。

いつの頃からか、社会が自己愛的になりました。

— つづく —

※この中に出てくる「A役」の答えは、次号に掲載します。お楽しみに。

「ままごと」と「生活発表会」との違いがありますが、保育園の男の子の例は、16年前に聞いた佐々木先生の話とは真反対です。今回の園長先生の話聞き、素晴らしい保護者とお子さんと先生がいると感動しました。園長先生の話と佐々木先生の話に通じるものは、母性への着眼点です。うれしく感じると同時に重いメッセージがここにはあるとわたしは受け取りました。

今はスマホを手にしたがらの子育てについて、議論されていますね。佐々木先生の講演メモについては、次号にも紹介したいと思います。